

科学の甲子園 Jr 出場へ

松本秀峰・染谷香希さん



顕微鏡を使って石の種類を判別する実技実験の練習に励む染谷さん

松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)1年の染谷香希さん(12)が、中学生が科学の思考力や技能を競う「科学の甲子園 Jr全国大会」(国立研究開発法人・科学技術振興機構主催)に県代表として出場する。都道府県大会を勝ち抜いた生徒が集う大会で、中信地区の学校に通う中学生が全国大会に出場するのは初めてだ。染谷さんは「学校の名前も背負っているので一生懸命頑張りたい」と意気込んでいる。(北條彩乃)

実技課題による書類審査を突破し、

8月3～5日に県総合教育センター(塩尻市片丘)で開かれた県教育委員会主催の県大会「信州Maker'sキャンプ」に参加した。そこでの優秀な成績が認められて県代表の6人に選ば

1を入れて、猫が近づくと音が鳴るようプログラミングした作品を作り上げた。プレゼンテーションなども含めて総合的に評価され、作品はキャンプで最優秀賞を受賞した。

全国大会は12月7～9日に茨城県つくば市で開かれ、理科、数学、情報にまつわる筆記試験と、実験などから課題解決をする実技試験があるという。染谷さんは学校でも科学部に所属し「考えて答えを出す数学や科学が好

中信初 県代表の一人に

れた。

キャンプでは「身近な困ったことを解決する作品」が制作テーマで、抽選で決めた3人グループで課題に取り組んだ。染谷さんは初めて出会った諏訪清陵高校付属中の生徒2人とグループを組み、「庭に猫が入ってくる」という困りごとに対し、段ボールで作ったドラえもんの人形の目に超音波センサ

き。応用問題が出てくると燃える」と目を輝かせる。理科の主任・高須一行教諭は「まだ1年生なので来年以降にもつながっていく」と期待する。県代表メンバーの中で唯一の女子生徒だが、染谷さんは「緊張もあるけど楽しみのほうが大きい。しっかり対策していきたい」と笑顔で話していた。